

第4節 海浜青年の家の主催事業

1 レクリエーションリーダー研修会

(1) 趣 旨

現代社会において生きる喜びとしてのレクリエーションのもつ意義は大きい。余暇を有意義に活用するために、レクリエーションの理論と技術を学習し、あわせてレクリエーションリーダーの養成とその振興を図る。

(2) 期日・会場・参加者

- ① 期 日 昭和51年5月14日～16日 2泊3日
- ② 会 場 福島県海浜青年の家
- ③ 参加者 教育関係者、社会教育団体、地域、職場青年団体、クラブ等の代表者 64名

(3) 講 師

日本レクリエーション協会上級指導員 国馬 善郎
福島県レクリエーション指導者クラブ
事務局長 土田 功

(4) 助 言 者

福島県海浜青年の家 指導職員

(5) 研 修 内 容

- ① 講 義 「これからのレクリエーションとリーダーのあり方」
- ② 実 技 「ゲームの指導法」
「フォークダンスの指導法」
- ③ 演 習 「キャンドルサービスのもち方」
- ④ 討 議 「レクリエーション活動の運営と問題点」

2 野外活動（臨海）リーダー研修会

(1) 趣 旨

野外活動（臨海）のリーダーとして必要な知識と技術について研修し、野外活動の振興を図る。

(2) 期日・会場・参加者

- ① 期 日 昭和51年7月16日～18日 2泊3日
- ② 会 場 福島県海浜青年の家
- ③ 参加者 学校・社会教育団体・企業・クラブ等のリーダー 26名

(3) 講 師

福島県立相馬女子高等学校教諭 佐久間貞良
相馬地方広域消防本部警防係長 橘 稔
福島県立相馬高等学校教諭 島 紘一
相馬地方広域消防相馬消防署救急係長 高玉 幸男
福島県海浜青年の家 指導職員

(4) 研 修 内 容

- ① 講 義 「野外(臨海)活動とリーダーのあり方」
「水難救助法について」
- ② 実 技 「海水浴」「人工呼吸法」
- ③ 演 習 「キャンプファイヤー」

3 親と子、海浜のつどい

(1) 趣 旨

親と子で大自然に親しみながら共同宿泊生活を通じ、海浜でのレクリエーションなどに楽しいひとときをおくって

健康の増進と望ましい親子関係を深める。

(2) 期日・会場・参加者

- ① 期 日 昭和51年7月31日～8月1日 1泊2日
- ② 会 場 福島県海浜青年の家
- ③ 参加者 親と子、地域の子どものグループ（成人1人と子ども3人以内） 115名

(3) 講師・助言者

福島県海浜青年の家 指導職員

(4) 研 修 内 容

- 海水浴
- 砂の芸術
- キャンプファイヤー
- レクリエーション交歓会

4 集団宿泊指導担当者研修会

(1) 趣 旨

学校教育と社会教育の連携を具体的に推進し、児童生徒等の全人的な育成に資するため青年の家における集団宿泊指導の効果的な運営・内容・方法について研修する。

(2) 期日・会場・参加者

- ① 期 日 昭和51年10月12日～14日 2泊3日
- ② 会 場 福島県海浜青年の家
- ③ 参加者 小・中・高等学校及び社会教育関係団体の集団宿泊指導担当者 42名

(3) 講師・助言者

郡山市立小原田中学校長 佐久間 守 勝
福島県教育庁社会教育課 社会教育主事
福島県海浜青年の家 指導職員

(4) 研 修 内 容

- ① 講 義 「在学青少年と集団宿泊研修」
「青年の家における研修について」
 - 教育課程上の手続き
 - 利用申請の手続き
 - 研修プログラム例
- ② 事例研究 「青年の家における集団宿泊指導について」
- ③ 研究協議
 - ア 集団宿泊研修の意義
 - イ 集団宿泊研修の企画と展開
- ④ 理論と実技
 - オリエンテーリング
 - フィールドワーク
 - ゲ ー ム
 - フォークダンス
 - キャンドルファイヤー

5 昭和51年度福島県学級生大会

(1) 趣 旨

県内の青年学級生が一堂に会し、共同宿泊研修をとおりて相互の交歓を図るとともに青年学級における学習の進めかたについて研究協議する。

(2) ね ら い

- ① 県内青年学級の振興を図るために青年学級で「何をど